

クルマに新しい価値をもたらすSDV ～期待される実現価値と構造変化の可能性～

経済産業省と国土交通省は今年5月、自動車・モビリティ分野の国際競争力強化に向けた「モビリティDX戦略」を策定しました。その中で、「今後、DXがGX(EVシフト等の電動化)と並ぶ競争軸となっていく」と指摘し、その主要領域の一つとして「SDV (Software Defined Vehicle)」を挙げています。

SDVの定義と実現価値

経済産業省によれば、SDVは「クラウドとの通信により、自動車の機能を継続的にアップデートすることで、従来車にない新たな価値が実現可能な次世代自動車のこと」と定義されています。

そして、SDVが実現する価値として、供給サイドでは、ハードウェア(HW)とソフトウェア(SW)の分離(これまでは個々のHWに合わせてSWを開発する必要)により開発の効率化や発売後の柔軟なSW設計変更・機能アップデートが可能となること、利用者サイドでは、車両の安全性・操作性等の機能のアップデートやサービスのカスタマイズが可能となること等が挙げられています(図表1・2)。なお、SWのアップデートや機能・サービスの追加が自動車価値の維持に繋がるとの見方もあります。

図表1 SDVが実現する価値

	内容
供給 サイド	① ハードウェアとソフトウェアの分離による開発の効率化や、発売後の柔軟なソフトウェア設計変更や機能アップデート ② 異業種と連携した多様なマネタイズの設定
利用者 サイド	① 車両の安全性や操作性等の機能を常に最新にアップデート ② 追加機能やサービス等を選択し、自由にカスタマイズ可能

(資料)経済産業省資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

図表2 ソフトウェアサービスの一例

ハンドル操作補助	エンタメ
自動的な車線変更	地図情報の更新
自動駐車	衝突検知アラーム

(資料)各種資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

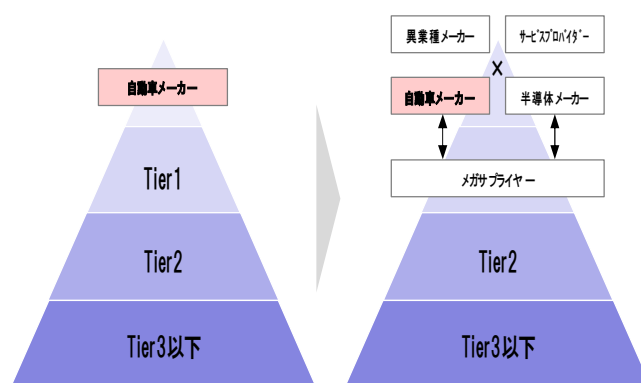
SDV化に伴う業界構造の変化

こうしたSDV化の進展は、新たなサービスやビジネス領域の拡大に繋がると期待される一方で、自動車産業の構造を大きく変化させるとの指摘もあります。

すなわち、自動車の作り方や使い方の変化に伴って、半導体メーカーやメガサプライヤーのプレゼンスが高まるとともに、IT系メーカーやコンテンツの提供に特化するサービスプロバイダーなど異業種からの参入が活発化し、自動車メーカーを頂点とする従来のピラミッド型の構造が変化する可能性があるとの指摘です(図表3)。

その場合、既存サプライヤーの事業戦略にも大きな影響を与えることが予想されることから、今後の動向については注視しておく必要があります。

図表3 自動車業界の構造変化イメージ



(資料)経済産業省資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

- ◆ 本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ◆ 本資料は、信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容等は作成時点のものであり、今後予告なく修正、変更されることがあります。資料のご利用に關しては、お客さまご自身の責任において判断なされますよう、お願い申し上げます。
- ◆ 本資料に関連して生じた一切の損害については、責任を負いません。その他、専門的知識に係る問題については、必ず弁護士、税理士、公認会計士等の専門家にご相談のうえ、ご確認ください。
- ◆ 本資料の一部または全部を、当社の事前の了承なく複製または転送等を行うことを禁じます。
- ◆ 本件に関するご照会は、ひろぎんHD経済産業調査部 担当：土居 (TEL082-247-4958) までお願いします。